

衛星通信と私

KDDI エムサット 千葉華久子

私は株式会社 KDDI エムサット注でインマルサットサービスの企画・立案及びインマルサットとの調整を行っています。スペースジャパンレビューをお読みの方々には説明の必要はないとは存じますが、インマルサットサービスとは赤道上空 36,000km に打ち上げられたインマルサット静止衛星を利用して、船舶や航空機等の移動体と陸上のお客様との通信(電話、ファックス、データ)、船舶間の通信を提供するサービスです。また、遠洋を航行する船舶に必須である遭難・緊急・安全通信の手段としても利用されており、生命の安全確保に貢献するという重要な使命を担っています。



注KDDI エムサットは、KDDI から委託を受け、同社が提供するインマルサットサービス全般の企画・営業、携帯型の衛星通信端末の販売・レンタル、技術支援、無線局の電波免許に関する所要手続きを行っているインマルサットサービスに特化した KDDI の 100%子会社です。

私がインマルサットサービス事業に携わって 5 年が経過しようとしています。その間インマルサットは事業部門の民営化を経て大きく変貌しました。元々インマルサットは 1976 年に「国際海事衛星機構に関する条約」を 47 カ国で採択することにより発足した国際機関でしたが、1998 年の条約改正を経て、1999 年 4 月事業部門が民営化されました。私もこのインマルサット民営化までのプロセスに署名当事者の立場から旧 KDD の社員として関わっておりましたので、1999 年 6 月に日本政府が改正条約に批准した時は非常に感慨深いものがありました。

私とインマルサットとのお付き合いは、当時の KDD 移動通信事業部インマルサット政策グループへ

の異動をきっかけに始まります。KDD はインマルサットの設立以来、日本政府に指定されたインマルサット運用協定の署名当事者として、インマルサットに出資してその運営に参画してきました。通常年に 4 回開催される理事会には署名当事者代表が集まり、技術・企画・運用・開発・財務等のインマルサット運営にかかる細目事項の決定が行われました。インマルサット政策グループにおける仕事は、この理事会の対応であり、理事会前の対処方針策定、理事会への出席、理事会結果の関係主官庁等へのフィードバック/調整が主な業務内容でした。

異動した当初は、私のインマルサットサービスに関する知識はゼロに近く、始めは社内の打合せに出席しても議論内容が全く理解できず、まるで外国語を聞いているようでした。また、インマルサットの業界には、専門の技術用語の他、POR (Pacific Ocean Region: 太平洋)、NCS (Network Coordination Station: 回線網管理局) など単語の一番頭のアルファベットを取った略語が非常に多く、当初はかなり悩まされました。

初めて理事会に出席し、発言した時の極度の緊張状態は今でも忘れません。50 人ほどの人が着席できる巨大な円卓。3 カ国語の同時通訳(残念ながら日本語はありませんでした)。各国代表者の堂々とした発言。議長に発言の機会を与えられた際は「Thank you, Mr Chairman」と議長に敬意を表してから発言を始めるのが礼儀なのですが、雰囲気圧倒された私は緊張のあまりお礼を忘れて発言を始めてしまいました。発言を終えた時には頭が真っ白になっていたのを覚えています。

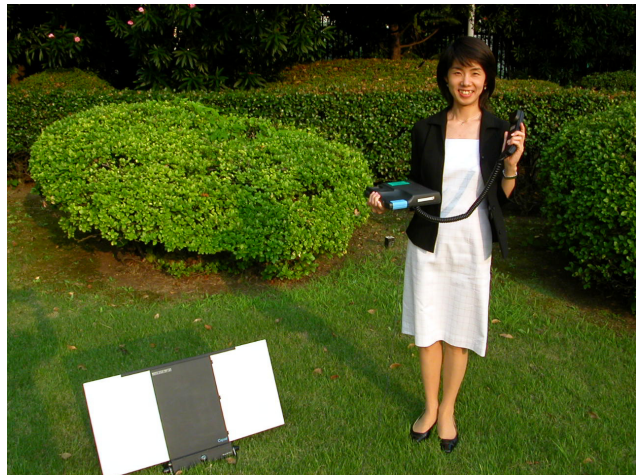
他の衛星通信システムの台頭を受けたインマルサットは、1990 年代半ばから効率的な運営・資金調達の自由化等を目指すために民営化の検討を開始しました。そのため私が出席した理事会においても、民営化という大きな目標に向け毎回白熱した議論が繰り広げられていました。会議が夜遅くまで及ぶことも珍しくありませんでした。各国署名当事者代表者の中には、インマルサット設立当初から事業に関わっていた人も多く、思い入れも強かったのでしょう、各国の利権代表でもあったので、民営化に関する議論に臨む姿勢は真剣そのものでした。

頑固一徹バイキング子孫のノルウェー代表、典型的英国紳士のイギリス代表、哲学的発言が印象的なギリシャ代表、アイビーリーグの香りがするアメリカ代表等のお国柄と個性を感じさせてくれる各国代表者間の駆け引きは、会議中だけでなく、休憩中など場外でも活発に行われていました。始めは国際会議における意思決定プロセスを目の当たりにして非常に戸惑いましたが、この経験を通して全く違った価値観を持った人と物事を決定していくために必要な術を自分なりに学ぶことができたのではないかと思います。

数年間に及ぶこうした理事会での議論の結果、条約に基づく国際機関としての機能を残しつつ、事業部門は新たに設立する英国の民間会社に移管することを決定し、1999年4月15日インマルサット会社が設立されました。

民営化当初は、技術志向の強かったインマルサットが民営化と同時に突然マーケティング偏重型の会社になってしまい、その急激な変化に戸惑うこともありましたが、最近は民営化から3年以上が経ち、だいぶ落ち着いてきたように思います。民営化後も私とインマルサットの関係は続いており、現在は、インマルサット会社とマーケティング、サービス事項に関する交渉・調整を行っております。

インマルサットサービスにも、固定網と同様に IP 化・ブロードバンド化が浸透しつつあります。現在はまさに電話・ファックスからインターネットへの転換期にあります。本年秋には船舶を対象としたインマルサット Fleet と呼ばれる 64kbps 通信サービスの提供を開始する予定です。また、5kg 程度の携帯端末で 64kbps のデータ伝送が可能なインマルサット M4 サービスは、昨年9月のNYテロ以降、アフガニスタン等からのテレビ中継用にご利用いただきました。テレビに映し出される悲惨な光景は心痛めるものでしたが、私を含めて多くの方がこうした映像を見ることで世界平和への願いを新たにしたいのではないのでしょうか。



私は人と人をつなぐコミュニケーション手段を提供する点に魅力を感じて通信会社に入社しました。インマルサットサービスは、船舶・航空機といった移動体だけでなく、通信インフラが整っていない地域でもご利用いただくことのできるサービスであり、多くの人々をつなぐ掛け橋になっています。これからも初心を忘れず、お客様のニーズに合ったより効率的で高品質なインマルサットサービスの提供を目指し、日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。